

## 47 脊髄障害自立度評価法（SCIM）と機能的自立度評価法（FIM）の比較について

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 別府重度障害者センター

松浦幸三・佐藤裕也・浅野圭司

### 【はじめに】

現在、別府重度障害者センターにおいては、脊髄障害者のADLや治療効果を評価する尺度として、機能的自立度評価法（Functional Independence Measure：FIM）（以下、FIMという）を使用している。しかし近年、急性期・回復期においては、脊髄障害自立度評価法（Spinal Cord Independence Measure：SCIM）（以下、SCIMという）を使用している、ADL向上率や訓練効果についての研究や報告がなされている。しかし、慢性期における研究、報告は少ない状況である。

### 【目的・方法】

本研究では、慢性期における脊髄障害者のADL評価尺度として、今後のSCIM活用に資するため、現行の評価尺度であるFIMとの差異について調査した。対象は平成18年10月1日から平成27年3月31日までに利用開始した者の中から、男女232名とした（男性；214名、女性；18名、平均年齢； $43.7 \pm 15.6$ 歳、受傷からの平均期間； $1.4 \pm 1.4$ 年、平均利用期間； $1.2 \pm 0.6$ 年）。対象者を神経学的機能レベル（C4、C5、C6、C7、C8、Th以下の6段階）、改良Frankelの分類（AB、C、Dの3段階）により機能状態を分類後、評価会議資料と別府重度障害者センターADL評価表をもとに、利用開始時と終了時のSCIMスコアを採点した（FIMについては採点済みであった）。なお、両評価法を比較するにあたり、評価項目相対表（図1）を作成後、一致しない項目を除外し、SCIMについては81点、FIMについては84点を最高得点とした。併せて、両評価表の利用開始時から終了時のスコア向上率を調査した。

### 【結果・考察】

SCIMとFIMの利用開始時と終了時スコアには、ともに高い相関が認められ、相関係数は利用開始時：0.98、終了時：0.95であった（図2、3）。この結果より、SCIMはFIMと同等の評価側面を持つことが推測される。また、スコア向上率はC7：ABのカテゴリーを除くすべての機能状態において、SCIMはFIMよりも高い向上率を示し、特にC4、C5レベルにおいて向上が著しい（図4）。これは移動項目（除外項目と階段昇降を除く）において、FIMは1つの項目であるが、SCIMは3つの評価項目を設定しており、移動項目スコアの向上が終了時スコアの向上に反映されたものと推測される。以上の結果と併せ、SCIMをFIMと比較した時、浴室移乗の項目が設定されていないが、呼吸、ベッド上動作、自動車移乗、床移乗といった脊髄障害者にとって重要な項目が評価可能であり、慢性期脊髄障害者の評価尺度として有用であることが推測される。

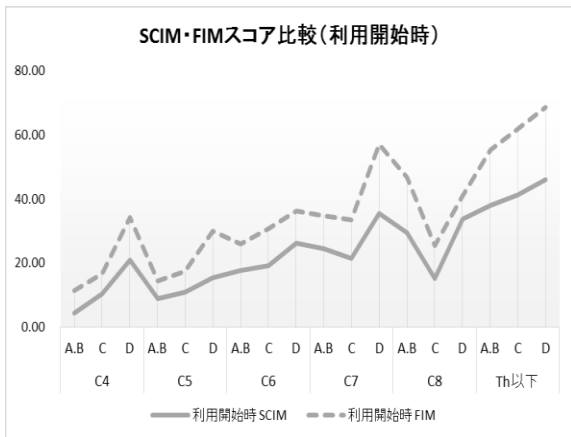
### 【課題・展望】

今回の研究では、両評価表法の利用開始時と終了時スコアの素点を反映したグラフから調査したのみであり、詳細な分析には至っていない。今後は、本研究を精査するとともに、経時的変化やADL項目ごとの相関性の検証等、より詳細な分析を行うことが必要である。これらにより、SCIMの有用性を明らかにすることで、脊髄損傷データベースをはじめとする、幅広い研究や報告との訓練効果検証等が行える可能性が広がると考える。

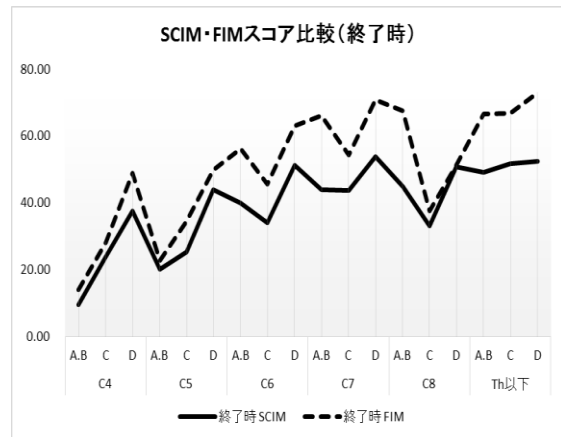
SCIM・FIM 評価項目相対表

SCIM		FIM			
セルフケア	食事	食事	セルフケア	運動項目	
	入浴(上半身)	整容			
	入浴(下半身)	清拭			
	更衣(上半身)	更衣(上半身)			
	更衣(下半身)	更衣(下半身)			
	整容	トイレ動作			
呼吸・排泄	呼吸	排尿管理	排泄		
	排尿	排便管理			
	排便	ベッド・椅子・車椅子			
	トイレの使用	トイレ			
移動	ベッド上動作と褥瘡予防	浴槽・シャワー	移乗		
	ベッド-車椅子移乗	歩行・車椅子			
	車椅子-トイレ移乗	階段			
屋内と屋外	屋内移動	理解	認知項目		
	適度な距離移動	表出			
	屋外移動	社会的交流			
	階段昇降	問題解決			
	車椅子-自動車移乗	記憶			
	床-車椅子移乗				

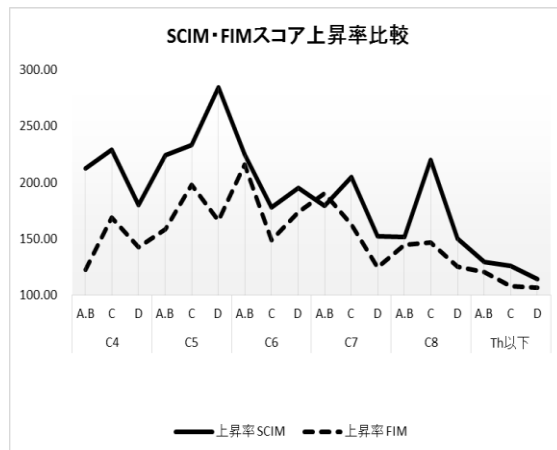
(図 1)



(図 2)



(図 3)



(図 4)